

25PB-pm159

医薬品副作用データベースを用いたエチゾラムとゾピクロンの副作用解析

○熊坂 春奈¹, 三原 潔¹, 小川 潤子¹, 小川 ゆかり¹, 小島 可寿子¹, 小清水 治太¹, 田島 純一¹, 西牟田 章戸¹, 益戸 智香子¹, 吉井 智子¹, 小野 秀樹¹ (武蔵野大薬)

【目的】平成 28 年 10 月 14 日、厚生労働省より「麻薬、麻薬原料植物、向精神薬および麻薬向精神薬原料を指定する政令」が一部改訂され、エチゾラムとゾピクロンが第三類向精神薬に指定された。また、エチゾラムとゾピクロンはこれまで使用制限されておらず乱用されやすい薬剤と考えられていたが、同年 11 月 1 日には一回で処方できる分量を 30 日分までと制限された。そこでエチゾラム、ゾピクロン服用時の副作用である薬物依存について検討した。

【方法】独立行政法人 医薬品医療機器総合機構の医薬品副作用データベース (JADER) において公表しているデータを使用し解析を行った。またエチゾラムと同様のベンゾジアゼピン系薬であるトリアゾラム、不安障害にも用いられる SSRI (選択的セロトニン再取り込み阻害薬) フルボキサミンを対照薬とし副作用である薬物依存について比較した。

【結果および考察】平成 16 年から平成 28 年までに登録された薬物依存に関する報告数はエチゾラムで 36 件 (その他の副作用 505 件、オッズ 0.071)、ゾピクロンで 1 件 (127 件、0.0079)、トリアゾラムで 10 件 (10 件、0.056)、フルボキサミンで 0 件 (614 件、0) であり、エチゾラムで薬物依存の頻度が高かった。今後薬剤を増やし、薬剤と薬物依存との関連性を ROR (Reporting Odds Ratio) を用いて評価していく予定である。